

機械器具(32) 医療用吸引器
管理医療機器 電動式吸引器 36777000

特定保守管理医療機器

アトム吸引器 D-58

【禁忌・禁止】

＜使用方法＞

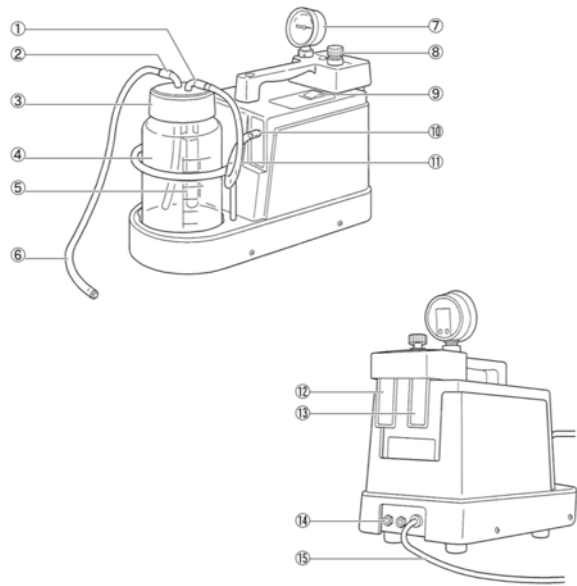
- 1) 本品を採血用吸引器として使用しないこと。

【形状・構造及び原理等】

1. 構成

(1) 本体

各部の名称



番号	名 称	番号	名 称
①	連結ホース接続管	⑨	電源スイッチ
②	吸引ホース接続管	⑩	吸引口
③	吸引瓶キャップ	⑪	吸引ポンプ連結ホース
④	吸引瓶	⑫	中間瓶(吸引側・フィルター付)
⑤	フロート弁	⑬	中間瓶(排気側・フィルター付)
⑥	吸引ホース	⑭	ブレーカ
⑦	吸引圧力計	⑮	電源コード
⑧	圧力調節ツマミ		

(2) 付属品

- ・吸引ホース
- ・吸引ポンプ連結ホース

2. 電氣的定格

[AC 電源]

定格電圧:100V
周 波 数:50/60Hz
消費電力:45VA

3. 機器の分類

- (1) 電撃に対する保護の形式による分類 クラスⅠ機器
(2) 電撃に対する保護の程度による装着部の分類 B 形装着部

4. 動作原理

モーターの回転を往復運動に変換してダイヤフラムを振動させ、ダイヤフラム上部の弁の作用により、気体を一方向に流す。吸引チューブに吸引圧が作用し、分泌物が吸引されて吸引瓶に流入する。吸引圧

の調節は圧力調整弁で行う。

吸引瓶内の分泌物が一定量になると、逆止弁が働いて吸引が停止する。飛沫状になった水分がポンプ内に吸引されないように、吸引側中間瓶のフィルターが吸収する。排気側中間瓶のフィルターは、排気の除塵と消音のためのフィルターである。

【使用目的又は効果】

本品は、液体または粒状物質の吸引などの治療に用いる。

【使用方法等】

- 1) 電源への接続
電源コードを電源コンセントに接続する。
- 2) ホース類の接続
本体と吸引瓶にホース類を接続する。
- 3) 電源を入れる
電源スイッチを ON にして、ポンプを作動させる。
- 4) 圧力の調節
圧力調節ツマミを回して、希望する吸引圧に設定する。
- 5) 吸 引
吸引瓶内の吸引物が一定量を超すと、フロート弁が作動して吸引を停止する。吸引物は最高目盛線(800mL)を超えないうちに捨て、吸引量が少なくても、使用毎に捨てること。
吸引が終了したら、少量の清浄水を吸引し、吸引チューブと吸引ホースの汚物を取り除く。
- 6) 消 毒
使用後は取扱説明書に従って、本体および部品類を清拭・消毒し、次の使用に備える。

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

- 1) ホース類の接続は取扱説明書を参照し、正しく行うこと。
[間違えて接続すると、事故の原因になる。]
- 2) 吸引チューブは毎回新しいものを使用すること。
[交叉感染防止のため、再使用しないこと。]
- 3) 長時間連続して使用しないこと。
[故障の原因になる。]
- 4) 電源コンセントの位置は、本品の近くで電源コードに人が触れない位置を選び、機器 1 台ごとに専用のコンセントを用いること。また、アースを確実にとるために、電源コードは正しくアースされた 3 芯接地型コンセントだけに接続すること。
- 5) 本品を布などで覆った状態で使用しないこと。
[過熱により、火災や感電の原因になる。]
- 6) 故障を発見したら勝手にいじらず、修理は専門家にまかせること。
- 7) 本品に衝撃を与えたり、ぶつけたりしないこと。
[故障や破損の原因になります。]

＜相互作用(他の医薬品・医療機器との併用に関する事)＞

【併用注意】(併用に注意すること)

- 1) 高周波を発生する機器を、本品の周辺で使用しないこと。
[医用電気メスや携帯電話機等の高周波を発生する機器を、本品の作動中に周辺で使用すると、電波障害による誤作動の原因になる。]

取扱説明書を必ずご参照ください

【保管方法及び有効期間等】

耐用期間:5 年[自己認証データによる]

保管条件:以下の条件下で保管すること。

保管温度 -20～45℃

相対湿度 10～90%(結露なきこと)

【保守・点検に係る事項】

[使用者による保守点検事項]

1) 点検

毎回の使用の前に、各部品の基本的な機能動作を確認すること。

点検項目は取扱説明書を参照すること。

[業者による保守点検事項]

1 年に 1 度を目安に定期点検を実施すること。

詳細については弊社または納入業者にご相談ください。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

■製造販売業者

アトムメディカル株式会社

〒338-0835 埼玉県さいたま市桜区道場 2-2-1

TEL: 048-853-3661(大代表) FAX:048-853-0304(代表)